

# 柞乃杜

秩父神社社報

柞乃杜(ははそのもり)

第 60 号

(大 祭)

令和元年12月3日



奉祝

天皇陛下御即位御大礼

人々

うぐまく柞に

重なりて

祭は続く

石鼓と共に

孝子

## 令和の御代替わりを奉祝して

めでたく秋の大嘗祭だいじょうさいが古式ゆかしく盛大に斎行され

日つぎの御子みこ（皇太子）が本然ほんぜんの日の御子（天皇）と成られて

日本の国の象徴君主たる天皇陛下が令和の御代を拓ひらかれました

我が国は 悠久ゆうきゅうの昔より 天皇即位をもって時代が改まり

国民は等しく心を新たに 国造りの業に尽くしてきました

令和元年（西暦二〇一九年）

戦乱に明け暮れた「昭和」に継ぐ「平成」の御代を鎮魂ちんこんと祈りに植樹

尽くされた上皇陛下の御心を御心にして「令和」という麗うらわしき和  
の御代を拓かれますよう 新帝陛下にはお祈り申し上げます

和  
市総代会

解説 秩父神社 (58)

杉山 正司

◆ 秩父神社を巡る

三口の刀剣と武蔵武士(三)

いよいよ秩父神社ゆかりの、三口の刀剣に話を進める時が来た。最初に、三口の長兄にあたる短刀について紹介していこう。

国宝短刀 銘備州長船住景光

銘表 備州長船住景光

裏 元亨三年三月日

刀身彫刻

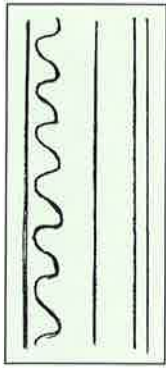
表 秩父大菩薩

裏 梵字

「キリークル」大威徳明王

法量 長さ二八・ニセンチメートル 反り僅か

銘文から、元亨三年(一二三三)備前長船派景光の作で、景光最大の特徴である「肩(片)落ち互の目」と呼ばれる互の目の肩の一方が落とされたように下がる刃文が最もよく表れている。しかも一部分だけ



肩落ち互の目

でなく、連続しており、一段と美しさを引き立たせている。さらに「乱れ映り」といって、刃文の影が、地に澄んで乱れた刃文のように映って見える特徴を有している。これが長船派の中でも、景光の作刀が最も地金(じがね)が美しいといわれる所以である。短刀としての姿も、洗練された美しさがあることなどから、昭和三年に国宝に指定されている。



埼玉県立歴史と民俗の博物館 「特別展由来伝来名刀の一千一年」 図録より転載

父大菩薩」への祈りと願いが籠められている。また梵字の大威徳明王は、密教の五大明王のうちの一人尊で、西方の守護者である。

大河原氏の祈りと願い

短刀には、銘をきるだけの茎の長さがなかったため、注文主は刻まれている彫刻が教えてくれる。次回紹介する太刀の銘や彫刻の共通性などから、前回まで述べてきた大河原氏であることが明らかである。彫刻の秩父大菩薩は、妙見菩薩であり、秩父神社へとつながる。また西方を守護する大威徳明王も表すことで、播磨国へ移住した大河原氏が、故郷の秩父神社の妙見菩薩と西方守護の大威徳明王に加護と武運長久や子孫繁栄などの祈りと願いを込めて奉納したことが推測できるのである。

上杉謙信と短刀

その後短刀は、秩父神社を離れ

て、戦国大名の上杉謙信の所有となった。上杉家の刀台帳に「乾号拾二号」とあり、「御堂御参詣御差料」と記され、謙信が春日山城の毘沙門堂に参拝する際に必ず指していたとするほどの愛刀である。それゆえ「謙信景光」の号が付けられ、謙信・景勝の愛刀三十五腰の一口と目されている。謙信好みの拵(はしら)も付属し、上杉家特有の小型鍔が添えられ、鍔には、除災戦勝等を祈る密教の格子状の「九字」の線が著されて、「謙信景光」と号することが首肯される。

それでは、いつ神社を離れて謙信の手に渡ったのであろうか。その手掛かりが『上杉家文書』(国宝・米沢市上杉博物館)にある。

「越後平定以下祝儀太刀次第写(第九六三号文書)に永禄三年(二五六〇)三月十五日、関東管領の祝いに関東八ヶ国の大名家が太刀を謙信に贈るという記載があり、この時に秩父神社から持ち出されて、謙信の手に渡ったと推測している。

その後、戦後に上杉家を離れた「謙信景光」は、愛刀家の手を経て、縁あって再び埼玉の地に里帰りを果たし、現在は埼玉県立歴史と民俗の博物館(さいたま市)に収蔵されている。

(埼玉県立歴史と民俗の博物館主任専門員兼学芸員)

# 令和は地方文化の時代

宮司 藺 田 稔

つい先月の十四日夕刻から翌十五日未明にかけて、新帝陛下には古式ゆかしく大嘗祭を斎行され、晴れて我が国にふさわしい象徴君主を体現なされたことをお慶び申し上げます。近來の特例とは申せ、今は上皇陛下に就かれた先帝の生前ご譲位をもつて実現された「令和」の御代替わりが、一点の曇りなき晴れの新時代に成就し得たことに幸先良き未来を予感した国民は、けっして小職ひとりではありませんまい。

○ 幸いなことに古来われわれ日本人は、近代を支配する「流れる時間」の歴史文明のほかに、万物生命に即した「循環する時間」という祭礼文化を持ち合わせています。

生き物が子孫に命を繰り返すように人間もまた人生を子孫に繰り返すように、季節も廻って年の命が改まるように、変転極まりない歴史文明に翻弄されながらも時には古來の生命的時間に立ち戻って文化本来の大過去を今に蘇生ならしめる。それが歴史文明に耐え抜く日本社会を支えてきた祭礼文化の働きののです。

恐れ多きことながら、先に大嘗祭を果たされた天皇陛下におかせられ

ては、数えて百二十六代目の連綿たるお命をもって「令和」という祭礼文化の時代を拓かれることになられるのです。

○ こうして御大典をお祝いする国民挙げての諸行事をすべて盛儀のうちを終えつつある今、改めて今後、われわれ国民が令和の時代をいかに切り拓いていくか、を真剣に考えてみる必要がありましよう。

そこで今さらながら振り返ってみると、わが国内の実情は容易ならざる課題が山積している状況です。なかでも深刻な課題のひとつが、すでに顕著な社会現象となつている少子高齢化による人口減少が、都会と田舎を問わずコミュニティ本来の活力を喪失させて人心の孤独化や荒廃が深まるなかで激甚化する天災や人災への防災や減災にも応じきれない事態となつていのです。つまりは、地方ごとのコミュニティ再構築が問われているということでしょう。

○ とりわけ、東京という大都市圏に近接しながら、深い山並みに囲まれて独特の豊かな自然風土を

未だ失っていない秩父郡市の住民として、私たちは今度こそ真剣になつて、誰にでも魅力ある生活社会・コミュニティを造り上げるよう努力すべきでありましよう。

実は以前に遡って、平成二年十二月に発行した本誌3号にも本稿に似た論説「平成は文化の時代」を掲載しているのです。やはりその当時は今から三十年前のことで、今の上皇



建設中) 遠望 10月19日

陛下が新帝として即位大嘗祭を親祭されたことを奉祝する発刊号であったからでした。そこでその旧稿を読み直してみると、情けないことに結論的には本稿の趣旨を先取りした結びの文章ですので、「平成」初期の時代認識から一向に進化しない実情認識を恥じつつ、以下に再録して本稿の結びに代えます。

「ともあれ、現代の大都会は、そういう人間味のある生活文化を喪失しています。大東京のコンクリート・ジャングルのどこに、死後の安心をも暖かく包み込んだ霊的共同体が見出せるでしょうか。毎日膨



皇居東御苑の大嘗宮

大な量のゴミ処理と一緒に老人や死者が使い捨てられていられるばかりで、生き甲斐どころか死に甲斐さえも奪われた住民が、それを考える暇までもあくなきレジャー産業の商魂の餌食にされてしまっているではありませんか。

平成（令和）の秩父が、こうした大都会のアンチテーゼとなつて、恵まれた風光に靈性を見る家郷世界を再び取り戻すことができさえすれば、心のオアシスとして訪れる人の数は着実に増えることになるでしょう。」

【表紙絵解説】



此度の表紙絵画は、秩父郡小鹿野町下小鹿野に在住の小菅光夫画伯の作品「夜祭の日の秩父神社境内」を掲載させて頂きました。先生は昭和二十五年小鹿野町に生まれ、武蔵野美術短期大学をご卒業の後、絵画を通し秩父夜祭や小鹿野歌舞伎の魅力を発信し続けておられます。

十五年前より尽力されている下小鹿野に鎮座の小鹿神社（通称・紫陽花神社）の復興活動が実を結び、今では境内や参道が色とりどりの紫陽花で埋め尽くされ、毎年七月の第一日曜にはあじさい祭りが開催されています。今年で十四回を重ね、境内池でのザリガニ釣りや歌舞伎など様々な趣向で賑わいを見せています。

今回の表紙絵は、平成殿ロビーに常時展示しております。是非お近くでご覧ください。

また、先生の個展が来たる十二月七日〜十五日まで市内宮側町「ギャラリー「かみいし」にて開催されます。ご期待ください。

【表紙歌解説】

人と人 うづまく様に 重なりて  
祭りは続く 太鼓と共に

作者中川孝子さんは、市内滝の上町で元気に余生を送っておられる秩父市民。当社の蘭田宮司とは、小学・中学校時代の同窓生です。

旧秩父セメント株式会社の重役、中川家の養女として育ち、日本女子大学を中退して同社幹部社員、河原東一郎氏と結婚、在京して一男二女を育て上げ、ご主人退職後は滝の上に邸宅を構え、揃って秩父に閑居。それまでには、孝養を尽くした養父母を看取り、一昨年にはご主人を亡くされましたが、今でも持ち前の明朗さと社交性を発揮して元気に老後を楽しんでおられます。

当社報の表紙に紹介しました短歌は、孝子さんが平成二十五年七月に発刊された歌集『折にふれて』冬の章に所収の一首。数ある秀歌のうち当社の夜祭を詠まれたことで宮司が有難く掲載をお願いした一首です。

### 御社殿保存修理工事

#### ◆ 秩父神社の彫刻に感服

株式会社 小西美術工藝社  
代表取締役社長 デービッド・アトキンソン



表して感謝申し上げます。

昭和42年以降の文化財修理を基本とする5年弱にわたる工事ですので、かなり大掛かりな修理となります。

工事は各殿の東面から始まり、西面、本殿の北面及び拝殿の南面の順に修理を行います。各面の修理は約1年半かかります。

今回の彫刻の彫刻の彩色の比重が重要になります。工事はまだ始まったばかりですが、既に、修



秩父神社様の修理を小西美術工藝社が担当させていただくにあたり、会社を代



復後に綺麗に甦った姿を拝見する日をとっても期待しております。

弊社は文化財修理業界の中で、漆塗り、極彩色、丹塗り、鍔金具の分野において国内最大手の会社です。職人の数は65名で、すべてが正規雇用です。私が経営を任されてから10年経ちますが、就任当初から次世代の育成に努め、若い職人を増やしな

がら一所懸命育てています。また、長年、日光の二社一寺の修理をさせていた。だいており、明治時代からは、全国の神社仏閣も数多く手掛けるようになりました。この業界は老舗が非常に多いイメージですが、実はほんの数社しか存在せず、弊社はその数少ない老舗の中でも最大手です。

弊社は日本産漆をもっとも多く使う会社ですが、数年前までは、漆掻き職人の高齢化が原因で、日本産漆が消滅する危機的な状況になりつつ

ありました。

そこで、会社ができることとして、漆を掻く文化の復活と日本産漆の安定供給に貢献すべく、岩手県二戸市に支社を設けました。漆の木を種から育てて植樹し、同時に若い職人も雇って漆を掻いています。

私は普段弊社の社長として、北海道から沖縄まで全国をまわっています。各都道府県に特徴的な建造物はたくさんありますが、中でも秩父神社を初めて拝見した時の強い感動は忘れられません。とりわけ、大きな衝撃は彫刻です。各面に神社の代表的な彫刻が施され、それらは、北辰の梟や子宝子育ての虎であったり、つなぎの龍や元気な姿の三猿もあります。日光の業者としては、馴染みのある左甚五郎作と聞いて、なるほどと思えました。取り外されている



彫刻を実際に間近で見ると、鳥肌が立つほど感動します。彫刻がもとの鮮やかな姿に修理されて、1日も早く社殿の取り付け検査ができる日を心待ちにしております。

#### プロフィール

一九六五年イギリス生まれ。  
オックスフォード大学(日本学専攻)卒  
二〇〇九年、国宝・重要文化財の補修を手掛ける創立三〇〇年余りの株式会社小西美術工藝社入社。  
二〇一四年より現職。  
日本政府観光局 特別顧問。  
迎賓館アドバイザー。

# 梟だより



## ◆ 御社殿保存修理工事進捗状況

今年度の御社殿保存修理工事が七月の川瀬祭り後より始まりました。先ず昭和の修理時に整備された軒内土間（無筋コンクリート）と葛石（御影石）に不同沈下による大きな亀裂が生じていることから基礎の工事を行いました。

その後、東面には工食用足場が掛けられ、本殿幣殿拝殿の外部彫刻彩色及び漆塗りと銑金具の修理が始まりました。彫刻の彩色は彫刻を取り外し、小西美術工芸社にて現状の彩色を落として再度彩色を行い、取り外せない彫刻はその場で彩色を行います。破風や建具



は漆塗りとなり、銑金具は破風や垂木及び長押等に付いていたものを取り外し、形を整えて金箔をはります。

東面の足場設置期間は令和元年七月から令和二年十二月頃までを予定しております。ご参拝の皆様にはご不便をおかけ致しますが、何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

## ◆ 特別御朱印頒布



例大祭 期間中（二月一日〜六日）に限り、特別御朱印を頒布

致します。

当社の御本殿彫刻の中でも名工左甚五郎作と伝わる「子宝・子育ての虎」「つなぎの籠」を描写し、宮司揮毫の特別紙で奉製を致しました。数に限りがありますので、お一人様一枚に限らせていただきます。

## ◆ 即位礼及び大嘗祭当日祭執行

今上陛下の即位礼及び大嘗祭を奉祝し、十月二十二日「即位礼当日神社に於いて行う祭祀」、十一月十四日「大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀」を執行致しました。殊に大嘗祭当日祭の式次第は大祭

式に倣い、宮司以下祭員正服を着装し、大総代、地区総代など多くの御参列を賜り今上陛下一世一代の大嘗祭を心を一にしてお祝い申し上げます。厳粛に斎行されました。



## ◆ 秩父神社妙見講

自 令和元年 九月  
至 令和元年十一月

- 九月 一日 小鹿野講
- 九月 七日 荒川妙見講
- 九月 七日 浅海 忠講元外百三名
- 九月 八日 上町講
- 九月 八日 浜中啓一講元外百九十名
- 九月 八日 中村講
- 九月 八日 岩田雄一講元外二百九名
- 九月 二十九日 上宮地講
- 大島耕造講元外百五十四名

- 十月 二十日 中町講
  - 久保忠太郎講元外百十六名
  - 十一月二十五日 野坂講
  - 浅見伊久雄講元外百三十一名
  - 十月二十六日 桜木講
  - 濱田雄司講元外三十四名
  - 十月二十七日 東町妙見講
  - 福井直壽講元外八十六名
  - 十一月七日 番場妙見講
  - 今井 明講元外九十四名
- 本年より、東町妙見講福井直壽様が新に講元に就任されました。どうぞ宜しくお願い致します。

## ◆ 柞乃杜前結婚式報告

- 秩父市上影森 金澤 達人・彩乃様
  - 秩父市下宮地町 町田 貴志・麻衣様
  - 小鹿野町三山 相馬 雅・美帆様
  - 秩父市中町 浦島 章弘・麻衣様
  - 横瀬町横瀬 齊藤 智・彩乃様
- 末永く幸せな家庭をお築き戴きますようお願い致します。

## ◆ 「秩父郡の歌」CD制作

協賛金（一口五千円）募集中  
秩父宮会の令和御大典記念事業の実現に充てるべく一口五千円の協賛金を募集しています。協賛者には一口につきCD一枚を提供させていただきます。令和二年五月三日CD完成予定。

◆ 天皇陛下御即位を

お祝いする「国民祭典」

権福宜 守屋通夫

去る十一月九日、日本晴れの皇居前広場に於いて天皇陛下の御即位をお祝いする「国民祭典」が超党派の議員連盟、財界などでつくる「天皇陛下御即位奉祝委員会」主催で開催されました。参加者は六万人を超え、式典には招待者を含む約三万人が集う催しでした。

当秩父神社氏子青年会では遡ること三十年前、結成して間もなく、平成の御即位奉祝行事に真新しい「北辰のフクロウ」の半纏を身に纏い銀座通りを奉祝パレード。その後も御即位十年をお祝いする国民祭典、御即位二十年奉祝国民祭典などの節目の「奉祝行事」に参加して参りました。



今般も 蘭田宮司 蘭田権宮 司、井上 奉賛会長 宮前大総 代と共に 山寄会長 以下会員 二十一名 が午後一 時より開 始される 諸行事を 目安に会 場へと出 向きました。

第一部「奉祝まつり」は自衛隊、警視庁などの音楽隊、子供たちの鼓笛バンド、全国各地の都道府県から十八団体、約二千名の方々が参加し、内堀通りを北海道から沖縄に至る、お国自慢の郷土芸能が華やかにパレードし、鍛冶橋通りでは故郷の懐かしい祭りを想わせる、三十団体の勇壮な神輿渡御で沿道に集まった大勢の観客を圧倒させました。

夕刻、会場入りすると皇居・正門の前に特設舞台、観覧席には大型映像設備が設けられ、式典に先立ち、天皇陛下の御即位までの歩みを振り返る記念映画「第一二六代

天皇陛下御即位をお祝いして」が上映されていきました。

第二部の「祝賀式典」では開会宣言とファンファーレに続き、両陛下にゆかりのある各界の著名人から寄せられたお祝いのメッセージの披露や奉祝演奏と続き、会場内も和やかに時間が流れて行きました。

午後六時を過ぎた頃、二重橋に天皇皇后両陛下はお出ましになり、日の丸小旗と提灯を手にとる我々を見つめて下さっているかのようで、誠に感無量でした。主催者の式辞、内閣総理大臣の祝辞、奉祝曲を人気グループ「嵐」の心を籠めた歌唱と、参加者全員での国歌斉唱は感極まりました。締めくくりに幕を閉じました。

令和の御代に改まり、当会は創立三十周年の節目を迎え「御即位」と重なる誠にお目出度い年になり、来る令和二年二月二十九日には記



念式典・祝賀会を挙行致します。国民の象徴である両陛下が私共に寄り添って下さる御心を受け、新たな息吹で当氏子青年会を導いて下さることと実感する一日でした。

編集後記

■ここに社報柞乃杜第六十号御即位御大札奉祝記念号をお届けいたします。

■愈々徳川家康公御造営の社殿保存修理工事が始まりました。その家康公を祀る東照宮が境内に鎮座しております。当社所蔵「秩父大宮妙見宮縁起」によると元和五年(一六一九年)十一月三日勧請とあり、本年四〇〇年の記念すべき年を迎えました。時代の趨勢とはいえ、徳川二六〇年がこの秩父の発展を果たしてきたことは申すまでもありません。年月は移り変わろうとも、先人達より受継いだ厚き床しい心根を大切に、祭祀の厳修に努めて参ります。



※ 本報の用紙は再生マツト紙を使用しています。

令和元年(二〇一九)十二月三日  
編集 秩父神社社務所  
〒366-0206 埼玉県秩父市番場町一三  
TEL 〇四九四 二二一〇二六二  
FAX 〇四九四 二四一五五九六  
印刷所 株式会社 拓文社印刷所  
〒366-0206 秩父市東町二七一八